

〈調査 1〉

歯科診療所における初診患者の実態
調査とその推移 第 16 報

秋元 秀俊 Hidetoshi AKIMOTO

日本ヘルスケア歯科学会事務局長

有限会社 秋編集事務所

東京都文京区関口 1-45-15-104

Editorial House AKI

1-45-15, Sekiguchi, Bunkyo-ku, Tokyo 112-0014,
JAPAN

藤木 省三 Shozo FUJIKI, DDS

歯科医師 Private Practice

日本ヘルスケア歯科学会理事

大西 歯科

兵庫県神戸市灘区山田町 2-1-1

Ohnishi Dental Clinic

2-1-1, Yamada-cho, Nada-ku, Kobe, Hyogo
657-0064, JAPAN

〈要約〉この調査は、定期管理型歯科診療所の初診患者の経年的動向を知ることを目的に、日本ヘルスケア歯科学会の会員診療所(主に「健康を守り育てる診療所」の認証を受けた診療所)において日常的に記録されている診療記録を匿名化したうえで収集し、その初診患者の特徴を分析したものである。この第 17 次調査(第 16 報)は、63 診療所(24 都道府県)の 1 年間(2021 年 1 月 1 日から 12 月 31 日)の初診患者(生年月日と性別の記載がある患者総数 13,908 人、男性 6,061 人、女性 7,847 人)の口腔内の記録を集計・分析したものである。会員診療所のうち原則として初診患者全員の口腔内記録がデジタル化されたデータとして提出可能で、6 歳以上の小児について 1 人平均 DMF 歯数(以下、DMFT 指数)、成人については DMFT 指数のほか、残存歯数、歯周病進行度、喫煙経験の記録のある会員に協力を要請し、その記録を集計した(必ずしもすべての項目の記録が揃っているわけではない)。調査集計の結果、前回調査に引き続き 12 歳以上の年齢(階層)別 DMFT 指数の低下、若年層男性の非喫煙者率の増加が認められた。また男女とも高齢者の現在歯数の増加が認められた。

キーワード：初診患者調査

DMF 歯数

現在歯数

喫煙経験

歯周病進行度

Do Project The Survey 1

Survey on New Patients Who Visit Dental Offices—Report 16

This survey was conducted to investigate oral health status of new patients at dental clinics practicing routine maintenance. Subjects were collected in anonymised digital format from Japan Health Care Dental Association (JHCDA) member clinics. The subjects of this 17th survey included 13,908 new patients (6,061 male and 7,847 female patients) who visited the 63 member clinics (across 24 prefectures) during the period between January 1st and December 31st, 2021. For children and minors, the DMFT scores were recorded, and for adults the DMFT scores, the number of remaining teeth, the condition of periodontal tissues and smoking status were recorded. As a result, the DMFT index continues to decrease in all age groups above 12 years, the marked decrease in male smokers continues in younger age groups, and the number of remaining teeth continues to increase in both men and women above 65 years of age.

J Health Care Dent. 2023; 24: 90-99.

Keywords : survey on new patients

DMF tooth count

current number of teeth

smoking experience

periodontal disease progression

はじめに

本調査は、地域住民の口腔保健の実態を把握する目的で、日本ヘルスケア歯科学会会員診療所(認証診療所などの協力診療所)の初診患者*の記録を集計して報告するものであり、協力診療所の構成に変化はあるもの

の 2005 年の初診患者調査以来 2021 年まで 17 年間にわたって調査を継続している。調査対象の定期管理をベースにした診療所(ヘルスケア診療所)の初診患者の年齢構成は住民の年齢構成とは異なり小児とその親の世代が多く含まれる傾向がある¹⁾。これは協力診療所の評判や通院してい

る人の紹介によって、初診患者が集まることに由来するものと考えられ、初診の段階から予防・定期管理を求めて受診する例も少なくない。このような理由から、地域住民の平均層に比べてやや健康志向の高い住民に偏っている可能性がある。ただし、初診患者であるため明確な主訴をもつ患者が比較的多いのは言うまでもない。国の調査である歯科疾患実態調査は、地域差や社会経済的背景などに配慮した偏りの小さいサンプリング調査とされているが、①対象者数の減少(永久歯の口腔診査受診者数は1957年27,812人だったが、2016年調査は3,696人)、②調査対象者の偏り(検診会場に指定した時間に自ら出向いた人を調査対象としている)、③正規分布を示さないう蝕経験について平均値による指数(DMFT指数)を重視している、などナショナルサーベイとしての質は劣化している。この意味で、本調査は、17年間(16報)にわたって毎年継続している全国に広がる50~60余歯科診療所の1年間の13,000人を超える初診患者の調査であり、国民の歯科保健の実態把握を補ううえで大きな価値がある。

1. 調査対象と調査方法

1) 協力診療所の要件と調査データの回収方法

この調査は、一定の要件(表1)を満たす診療所に協力を要請し、各診療所から匿名化した臨床記録を収集・集計したものである。この研究では、診査基準については均一化に努めているが、入力情報の取捨選択

については各々の診療所の考え方に委ねられている。

表1の資格要件を満たすと考えられる「健康を守り育てる診療所」として認証を受けた診療所などに対し、次の要領で患者名を匿名化し、住所などの個人情報削除した臨床記録データを提出するように協力を求めた。臨床情報の蓄積・検索に用いたデータベースは、FileMakerPro (Claris社)を使用して日本ヘルスケア歯科学会が作成した「ウイステリア」と市販臨床データベースソフト「デンタルX(デンタルテン)」(プラネット社)が使われている。

前者に対しては調査データの回収用FileMakerカスタムAPPを協力診療所に送付し、各診療所の患者データから設定された必要情報だけをコピーして回収した。これには患者氏名、住所は含まれない仕様となっている。デンタルXについては、必要な情報をCSVテキストとして必要情報を書き出し、回収した^{脚注1)}。

2) 調査対象患者

調査に協力を得たのは24都道府県の63診療所で、各々2021年1月1日から12月31日の初診患者の記録を収集した。記録された初診患者数の合計は、13,908人(生年月日と性別および初診年月日の記載があり、カルテ番号の重複のない初診患者記録数、男性6,061人、女性7,847人)であった(図1)。

有効調査者数は、協力診療所ごとに診査・記録を取捨選択しているため、調査項目ごとに異なる。初診時DMF歯数^{脚注2)}は、6歳以上20歳以

脚注1:「デンタルX」では、う蝕関連と歯周病関連情報が同時に書き出せないで、2つの出力情報について書き出されたCSVテキストについてカルテ番号を頼りに名寄せ作業をして診療所単位の臨床記録とした。「ウイステリア」「デンタルX」とも、各診療所が独自に決めたカルテ番号以外の個人が特定できる情報(氏名、住所、保険証番号など)をすべて削除している。さらにデータを回収した事務局で診療所名について回収用テンプレートのファイルを匿名化したうえで、生年月日、性別、初診年月日および初診時年齢に不明な記載や欠落のあるもの、調査期間に誤りのあるものは削除した。臨床情報の入力には日常業務の中で行われるため、タイプミスや入力情報の一部欠落などが少なからずある。「ウイステリア」の記録では智歯はカウントしない約束事になっているので、現在歯数29以上、DMF歯数29以上、残存歯数とDMFT歯数が矛盾するものなどについては入力エラーと考え削除した。

* 保険診療で言う初診患者ではなく、過去に受診経験のない(診療録のない)初めての来院患者。

表 1 調査に参加する診療所としての資格要件

- ①日本ヘルスケア歯科学会会員の診療所であること
- ②初診患者の診査情報として、小児は dmf 歯数^{*}、成人は DMF 歯数^{*}、残存歯数、歯周病進行度、喫煙経験の記録があること
- ③資料をデジタル化された情報として提出できること
- ④基本的に全員調査であること
(ただし、口腔内診査および問診事項の情報に欠落がある患者があってもよいこととした)

^{*} 1 人平均 DMF(dmf)歯数=DMFT 指数は、集団を対象とした指数であるが、これに準じて個々の患者の D+M+F(d+m+f)数を DMF(dmf)歯数と表記する

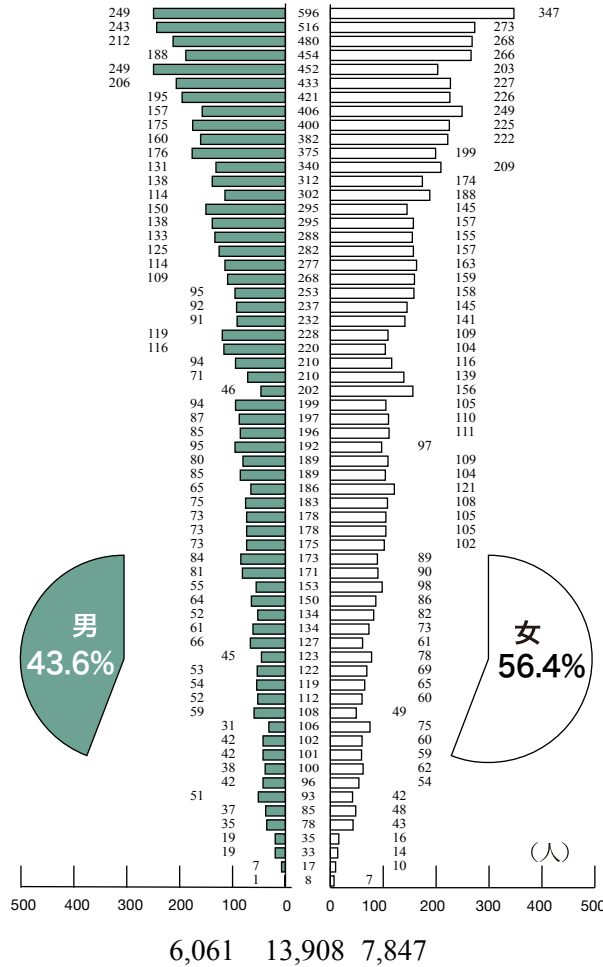


図 1 63 調査協力診療所の 2021 年 1 年間の初診患者数(生年月日と性別が記載されている 13,908 人の診療所別の性別人数)

下(6歳未満は欠損歯数を除く df 歯数のみ記載)の初診患者のうち DMF 歯数の記録のある 1,699 人(男性 808 人、女性 891 人)、および 20 歳を超える成人で DMF 歯数の記録のある 8,499 人(男性 3,518 人、女性 4,981 人)。さらに成人の初診患者で残存歯

数の記録のある者は 7,825 人(男性 3,180 人、女性 4,645 人)、現在の喫煙の有無の記録のある 69 歳以下の者 3,886 件(男性 1,546 人、女性 2,340 人)、喫煙の記録に加えて歯周病進行度の記録のある 79 歳以下の者 3,711 人だった。協力診療所別、集計項目

脚注 2 : DMFT は集団における指標だが、便宜的に個人のおける歯の数=D、喪失した歯の数=M、修復された歯の数=F の合計をこのように記載する。

表2 協力診療所ごと、調査項目ごとの記録のある者の数

総初診患者数*1				6歳以上	6~20歳	成人 DMF 歯数	喫煙経験	成人現在喫煙/	残存歯数/	成人 DMF 歯数/
男性	女性	0~20歳		DMF 歯数 記録件数*2	DMF 歯数 記録件数	記録件数	記録件数*3	喫煙経験 記録件数	歯周病進行度/ DMF 歯数/ 喫煙経験 記録件数*4	残存歯数 記録件数*5
13,908	6,061	7,847	4,345	10,070	1,699	8,499	4,553	3,886	3,711	7,825
596	249	347	210	470	88	392	—	—	—	392
516	243	273	171	424	84	345	98	86	96	345
480	212	268	151	258	7	254	231	199	229	254
454	188	266	233	216	57	163	160	150	156	162
452	249	203	79	438	65	377	2	—	—	1
433	206	227	130	339	68	280	186	81	31	105
421	195	226	299	230	109	124	21	20	20	124
406	157	249	156	320	82	246	—	—	—	246
400	175	225	147	305	54	253	180	163	177	252
382	160	222	59	310	24	290	253	230	251	290
375	176	199	145	269	47	224	179	164	164	223
340	131	209	126	268	54	216	189	179	169	216
312	138	174	99	245	56	189	118	112	116	189
302	114	188	18	284	16	269	153	146	152	256
295	150	145	111	206	60	159	—	—	—	159
295	138	157	95	217	22	196	135	125	135	196
288	133	155	65	145	12	134	19	18	—	134
282	125	157	166	148	43	106	—	—	—	106
277	114	163	61	181	17	164	—	—	—	119
268	109	159	82	170	20	151	145	132	116	151
253	95	158	71	212	32	183	176	161	119	182
237	92	145	51	173	19	156	31	29	1	156
232	91	141	109	104	41	63	54	12	13	15
228	119	109	0	228	0	228	42	39	38	228
220	116	104	60	97	7	91	—	—	—	91
210	94	116	79	177	30	150	139	90	139	150
210	71	139	58	96	13	85	79	72	79	85
202	46	156	—	—	—	—	—	—	—	—
199	94	105	35	179	18	161	80	66	41	161
197	87	110	71	163	37	128	92	75	91	128
196	85	111	77	155	39	117	—	—	—	116
192	95	97	27	183	18	166	133	115	—	166
189	80	109	66	157	34	124	—	—	—	124
189	85	104	75	132	29	105	78	74	77	105
186	65	121	49	98	9	91	62	55	1	91
183	75	108	5	183	5	178	170	153	170	178
178	73	105	41	163	28	142	115	90	114	142
178	73	105	65	146	33	114	112	101	111	114
175	73	102	80	39	3	37	2	1	—	36
173	84	89	111	100	38	62	45	43	42	62
171	81	90	33	155	18	143	—	—	—	143
153	55	98	7	139	3	136	125	119	125	136
150	64	86	50	126	27	100	83	71	78	100
134	52	82	39	111	17	95	90	64	79	95
134	61	73	34	26	—	26	25	17	25	26
127	66	61	43	107	23	84	61	49	57	84
123	45	78	31	96	15	82	69	61	68	82
122	53	69	32	105	15	95	59	47	22	95
119	54	65	40	107	28	81	54	39	43	71
112	52	60	34	99	21	80	67	58	67	80
108	59	49	35	91	18	73	60	46	59	72
106	31	75	19	91	9	83	76	64	9	83
102	42	60	21	94	13	84	68	63	—	84
101	42	59	22	92	13	79	76	71	76	79
100	38	62	17	90	8	82	53	50	53	82
96	42	54	55	45	4	41	24	18	23	41
93	51	42	21	88	16	72	—	—	—	72
85	37	48	38	69	22	47	36	27	33	47
78	35	43	6	74	2	74	36	35	36	74
35	19	16	7	8	—	8	3	3	1	8
33	19	14	24	13	6	7	—	—	—	7
17	7	10	4	16	3	14	9	3	9	14
8	1	7	—	—	—	—	—	—	—	—

*1: 生年月日・性別・初診年月日・初診時年齢の記録のある者

*2: 総初診患者数のうち、初診時年齢6歳以上 DMF 歯数記録のある件数

*3: 総初診患者数のうち、DMF 歯数・喫煙経験記録のある件数

*4: 初診時年齢(20~79)・DMF 歯数(0~28)・残存歯数(0~28)・歯周病進行度(0~3)・喫煙経験の記録件数

*5: 総初診患者数のうち、初診時年齢20歳以上・DMF 歯数・残存歯数(0~28)の記録のある件数

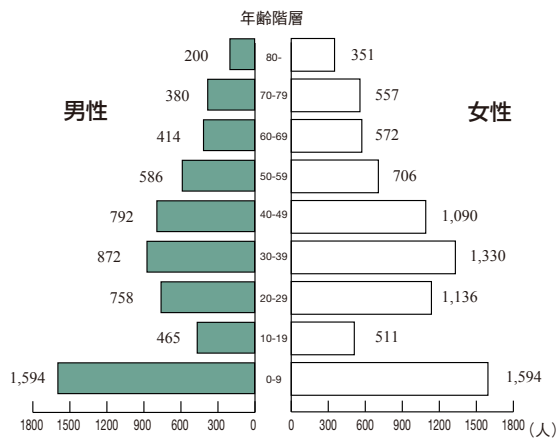


図2 年齢階層別の対象とした初診患者総数

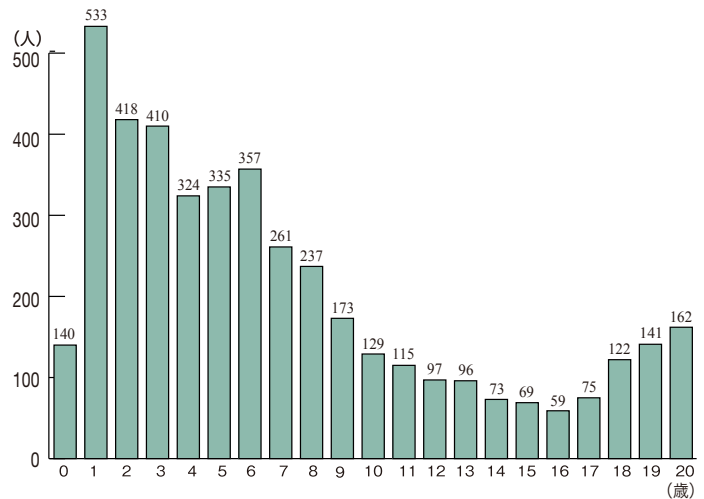


図3 20歳までの年齢別の初診患者総数

ごとの利用可能な記録件数は表2のとおりである。

3) 調査項目

1. 生年月日
2. 性別
3. 初診年月日
4. 初診時年齢
5. 20歳未満はDMF歯数
6. 20歳以上はDMF歯数/残存歯数(智歯を含めない)/歯周病進行度(日本ヘルスケア歯科研究会のプロトコル²⁾による)/喫煙経験/喫煙開始年齢/現在の喫煙の有無/初診時における過去の喫煙総本数

結 果

初診患者の年齢・性別のほか、10～70歳以上の年齢別(10歳区分)DMFT指数、5～20歳まで年齢別DMFT指数、20歳以上年齢階層別(5歳区分)残存歯数、年齢階層別歯周病進行度(全体、非喫煙者、喫煙経験者)、年齢階層別非喫煙者と喫煙経験者の割合について集計結果を以下に示す。

1) 初診患者の年齢・性別

総計13,908人の年齢階層・性別の分布(図2)は、これまでの調査とほぼ同じで10歳未満の初診患者が突出

して多い擬宝珠形状を示した。男女比は、従来よりも男性の比率が高く男性43.6%、女性56.4%、年齢階層では10歳未満が多いが(20.5%)、その占める割合はこれまでの調査より小さくなった。次いでその親の世代30～39歳(15.3%)が大きなボリュームであることは変わりなかった。

診療所間の特性は、初診患者数(入力数)の規模でみると、最大の診療所596人から8人まで非常に大きな開きがあった(図1)。

20歳までの年齢別初診患者数は、1歳(533人)、2歳(418人)、3歳(410人)など就学前の小児が多く、小学生は6歳から12歳まで高学年になるにしたがってなだらかに減少し、中高生は少ないという傾向は従来の調査と同様であった(図3)。

2) う蝕経験指数

6～20歳まで(有効記録数1,699人)の年齢別DMFT指数(図4)と成人の年齢階層別(5歳刻み)のDMFT指数(図5)を示す。成人の年齢階層DMFT指数では、この調査を始めた2005年と比較して、ほぼすべての年齢階層で男女ともDMFT指数の改善が認められた(図5)。

3) 喫煙および歯周病進行度

現在の喫煙と喫煙経験について記録のある69歳以下の成人3,886人に

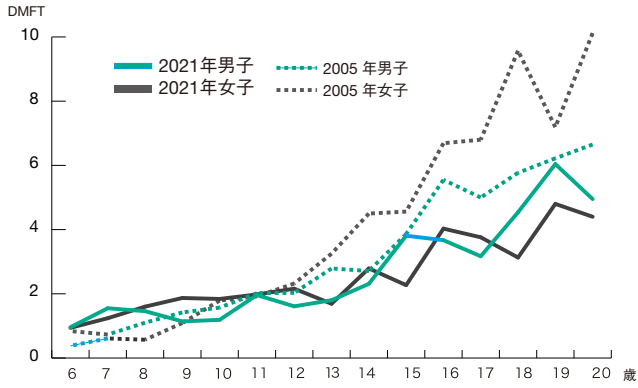


図4 6~20歳までの年齢別 DMFT 指数(参考 2005 年調査)

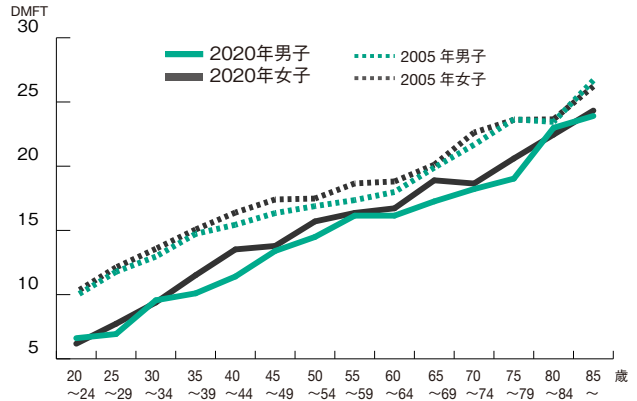


図5 成人の年齢階層別(5 歳刻み)の DMFT 指数(参考 2005 年調査)

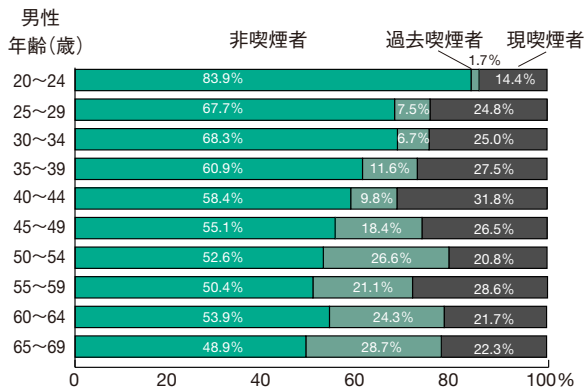


図 6a 年齢階層別の喫煙経験者数(男性)

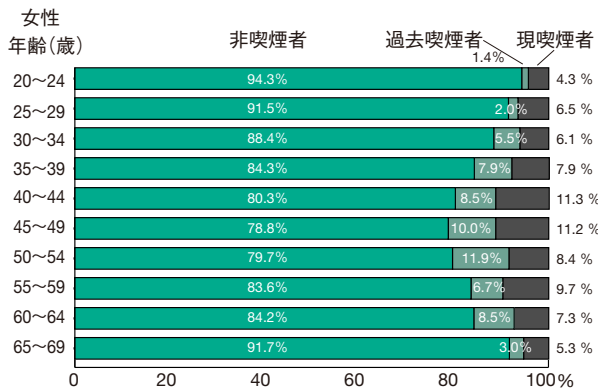


図 6b 年齢階層別の喫煙経験者数(女性)

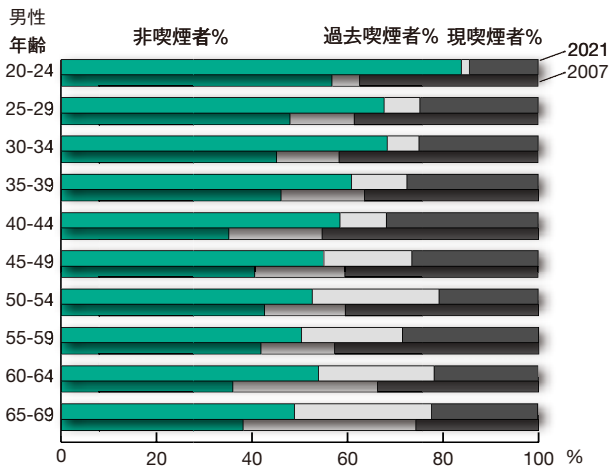


図 7a 年齢階層別の喫煙経験者数. 2007 年調査との比較 (男性)

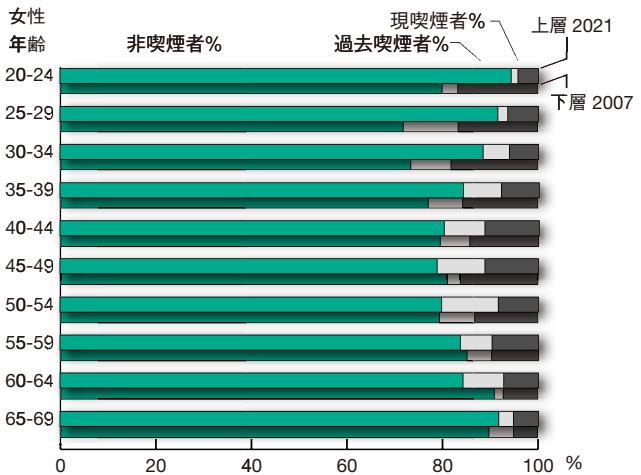


図 7b 年齢階層別の喫煙経験者数. 2007 年調査との比較 (女性)

ついて、年齢階層別に喫煙経験の有無を男女別に示す(図 6a, 6b)、喫煙経験者の年齢階層別性別の割合を 2007 年調査と対比して示す(図 7a, b)。女性の 20 歳台と 30 歳台、男性のほぼ全年齢階層で喫煙者率の顕著な低下が明らかになった。

また、歯周病の進行度および現在の喫煙と喫煙経験について記録のある 69 歳以下の成人 3,989 人に関して、喫煙経験の有無による歯周病の進行度を図 8 に示す。

さらに中等度以上の歯周病に罹患する確率が喫煙の有無にどの程度影

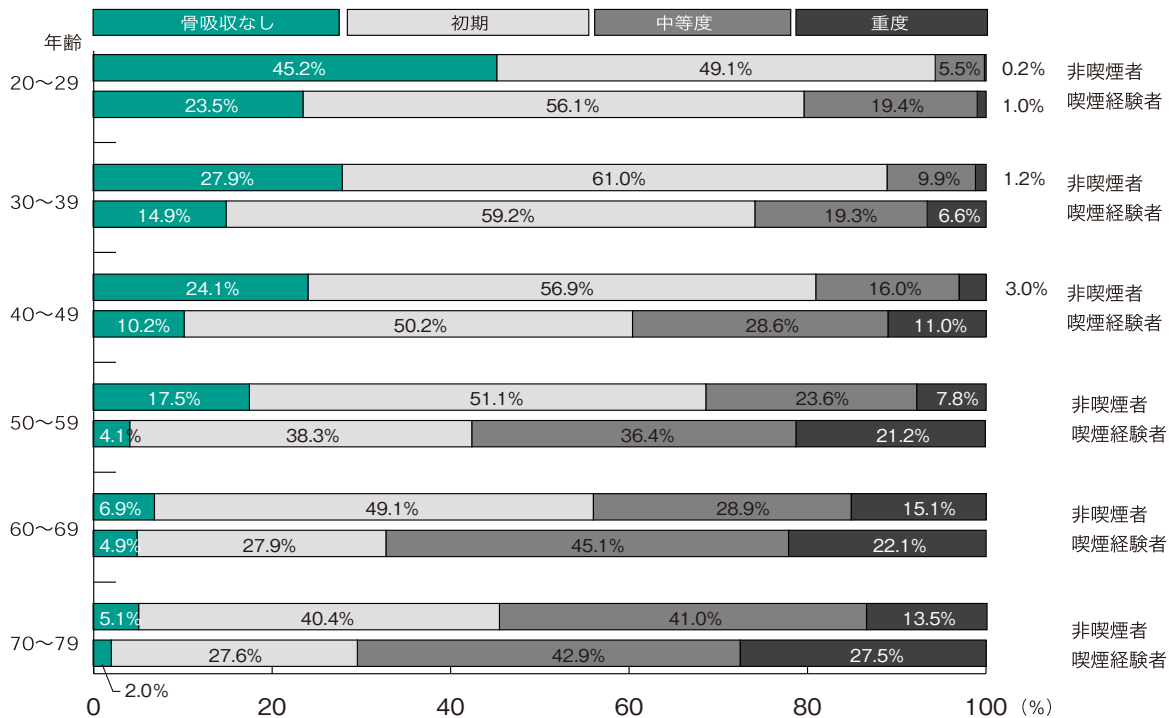


図 8 歯周病進行度と喫煙経験の有無(80歳以上は、対象者数が少ないので集計から除外した)

表 3 喫煙経験が中等度以上の歯周病を生じやすくする率(オッズ比)

		骨吸収なし	中等度+重度	オッズ比	95%信頼区間
30-39 歳	非喫煙者	192	76	4.38	7.2~2.7
	喫煙経験者	34	591		
40-49 歳	非喫煙者	135	107	4.90	8.1~3.0
	喫煙経験者	26	101		
50-59 歳	非喫煙者	63	113	7.74	16.9~3.5
	喫煙経験者	8	111		

響されているか、比較的影響の出やすい30~59歳の成人のうち、現在「喫煙している/していない」の記録のある2,448人について、喫煙習慣(非喫煙者に対して喫煙経験者)が中等度以上の歯周病を生じやすい比率(オッズ比)を算出したところ、30代で4.38倍、40代で4.90倍、50代では7.74倍であることが示された(表3)。

4) 現在歯数(残存歯数)

現在歯数について5歳刻みの年齢層でみると、男性は30代で5歳ごとに約0.2歯を減じ、40代になると0.5歯から1歯減少している。この調査の年齢階層ごとの人数は、50~54歳男性263人、55~59歳男性214

人と十分な対象者数なので偏りは少ないはずだが、この50代の5歳刻みでは0.8歯から1.8歯、60代でも65~69歳の現在歯数に偏りがあるものの、60代の2つの年齢階層を平均すると5歳で1.3歯を減じるに留まり、70代後半で初めて3歯以上の減少となった。女性では、30代前半で0.1歯で有意差はないが、後半で0.3歯、40代前半で0.2歯(有意差なし)、後半で0.5歯、50代では男性より減少幅は緩やかだが平均すると約1歯、60代で2つの階層平均で1.6歯、75歳以上になって初めて5歳刻みで3歯以上の減少を示す結果となった。このため一人あたり現在歯数には、50代から70代で女性の現在歯数が多い(50代では明らかな有意差)とい

表 4 加齢に伴う一人あたり現在歯数の減少

年齢階層(歳)	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-74	75-79	80以上
男性													
年平均現在歯数(歯)	27.83	27.72	27.68	27.46	27.25	26.72	25.73	24.97	23.18	23.10	20.63	19.31	16.28
年齢層間の歯数差	0.01	0.04	0.22*	0.20	0.54*	0.98*	0.76*	1.79*	0.08	2.47*	1.32	3.03*	
両側確率(t検定)	0.928	0.547	0.009	0.083	0.002	0.000	0.041	0.001	0.911	0.001	0.154	0.005	
女性													
平均現在歯数(歯)	27.59	27.48	27.43	27.31	26.97	26.74	26.26	25.71	24.20	23.22	21.91	18.90	15.07
年齢層間の歯数差	0.11	0.05	0.12	0.33*	0.23	0.48*	0.55*	1.51*	0.98	1.32*	3.01*	3.83*	
両側確率(t検定)	0.242	0.456	0.142	0.003	0.142	0.015	0.023	0.000	0.052	0.017	0.005	0.001	

* 有意差あり

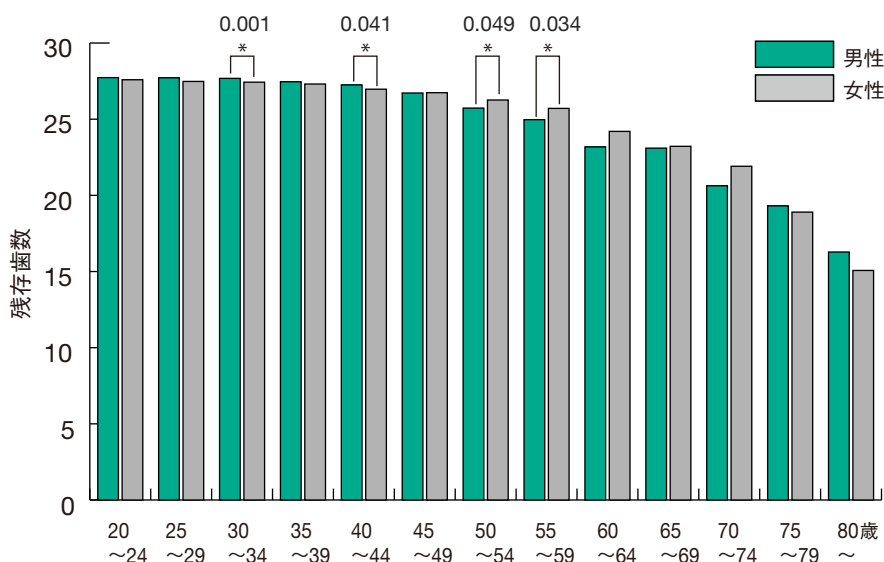


図 9 年齢階層別・性別の現在歯数(平均値)

55~74歳の年齢階層で女性が男性より多くの歯をもっている。女性の加齢に伴う現在歯数の減少は顕著なものではなくなっている。

(*性差による現在歯数に有意差が認められた年齢階層, 数字はP値)

う傾向があった(表 4, 図 9)。

過去の調査(2005年)と比較すると、現在歯数が減少する年齢は、10歳以上高年齢になり、男女とも急な減少を示す年齢層は80歳以上になった。その結果、85歳以上でも16年前の調査に比べて男性で平均5.5歯、女性で平均3.8歯も自分の歯を多く維持するようになっている(図 10)。

一人あたり現在歯数(有効記録者数7,825人)は、加齢に伴う歯数減少が、調査を重ねる度に着実に高齢化している。

考 察

本調査は、ヘルスケア診療所を訪れる初診患者の全国的動態を知る調査である。調査対象者数の規模の大きさ、調査の継続に伴う経年変化の追跡可能性において、世界的にも類をみない調査である。調査の回を重ねるにつれて各調査項目に一定の傾向が認められる。

本調査の1協力診療所あたりの調査対象者数(初診患者数)は、男性104.5人(2019年調査99.5人)、女性

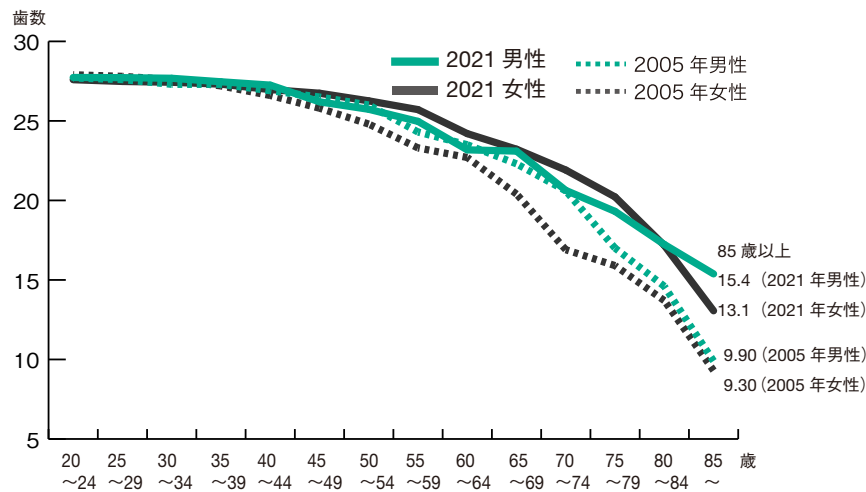


図 10 年齢階層別、性別の現在歯数(2005 年調査と 2021 年調査の比較)

135.3 人(同 135.5 人)で、コロナ禍以前のレベルに戻った。パンデミックに伴う初診患者数の減少は、19 歳以下については 2020 年の 4 月から 8 月まで、20 歳以上では 2020 年の 4、5 月に顕著で、それ以降の回復の足取りは速かった³⁾。中等度以上の歯周病の罹患に喫煙経験と与える影響をオッズ比として示した(表 3)。喫煙者は年々確実に減少しているが、その減少傾向はとくに若年者で著しい。

本調査は一般診療の記録なので、歯周病進行度の記録は、歯周病の疑いのある人に偏る傾向があると考えられる。このため「骨吸収なし」の人が少なくカウントされていると推測

される(とくにここで歯周病進行度の記録を含む対象者は、調査項目 6 のすべてを満たす人としているので、調査対象者は 3,711 人(全調査対象成人の 38.0% に過ぎない)。このことからフィールドの現実には、この調査結果よりも中等度と重度の歯周病が少ないと見積もるべきであろう。

本調査の調査協力の歯科診療所について別に一覧を掲げ、各診療所の院長および日々の診療記録の入力に尽力されているスタッフに敬意を表するとともに、その努力に深く感謝します。

本調査は、いかなる団体いかなる企業からも支援を受けていない。

文献

- 1) 秋元秀俊, 藤本省三. 調査 1 歯科診療所における初診患者の実態調査とその推移 第 8 報. ヘルスケア歯科誌. 2015;16(1):54-72.
- 2) 熊谷 崇, 熊谷ふじ子ほか. 初診患者の歯周病学的プロフィールと喫煙. ヘルスケア歯科誌. 1999;1(1):13-25.
- 3) 秋元秀俊. COVID-19 パンデミック下の歯科受診行動. ヘルスケア歯科誌. 2022;23:57-64.

調査1参加の歯科診療所

医療施設名称 (医療法人名は省略)		代表者
dental office おおとも	北海道札幌市	大友 康資
さいとう歯科	北海道札幌市	斉藤 仁
加藤歯科	北海道空知郡	加藤 久尚
国井歯科医院	山形県山形市	国井 一好
医) 加藤歯科医院	山形県東根市	加藤 徹
医社) うつぎざき歯科医院	茨城県水戸市	檜崎 慶二
医社) つくばヘルスケア歯科クリニック	茨城県つくば市	千ヶ崎 乙文
医社) 山口歯科医院	茨城県行方市	山口 将日
おかもと歯科医院	栃木県栃木市	岡本 昌樹
医) はやし歯科医院	栃木県真岡市	林 浩司
田中歯科クリニック	埼玉県川口市	田中 正大
わたなべ歯科	埼玉県春日部市	渡辺 勝
医) 大月デンタルケア・おおつきず	埼玉県富士見市	大月 晃
わたしの歯医者さん	埼玉県朝霞市	田幡 壮
医) 鈴木歯科医院	埼玉県蓮田市	鈴木 正臣
もりや歯科	埼玉県坂戸市	森谷 良行
医社) まさき歯科医院	千葉県習志野市	敷下 雅樹
医社) 杉山歯科医院	千葉県八千代市	杉山 精一
萩原歯科医院	東京都豊島区	萩原 眞
医社) 宇田川歯科医院	東京都江戸川区	宇田川 義朗
宇藤歯科医院	東京都町田市	宇藤 博文
河野歯科医院	東京都小平市	大久保 篤
武内歯科医院	東京都日野市	武内 義晴
川嶋歯科医院	東京都国立市	川嶋 剛
あおぞらデンタルクリニック	神奈川県川崎市	田中 勝幸
あめみや歯科医院	神奈川県秦野市	雨宮 博志
浦崎歯科医院	石川県金沢市	浦崎 裕之
たんぼぼ歯科クリニック	長野県茅野市	小塚 一芳
古瀬歯科	岐阜県加茂郡	古瀬 裕平
わかば歯科医院	静岡県駿東郡	小野 義晃
デンタルフリーまちこクリニック	三重県鈴鹿市	松尾 真千子
中川歯科医院	大阪府大阪市	中川 正男
おい歯科	大阪府岸和田市	大井 孝友
医) 西村歯科	大阪府泉大津市	西村 誠
たかぎ歯科医院	兵庫県神戸市	高木 景子
大西歯科	兵庫県神戸市	藤木 省三
宮本歯科・矯正歯科	兵庫県神戸市	宮本 学
医) おおの歯科医院	兵庫県神戸市	大野 茂
その歯科クリニック	兵庫県神戸市	曾野 偉隼
やまもと歯科クリニック	兵庫県神戸市	山本 修平
丸山歯科医院	兵庫県神戸市	丸山 和久
こんどう歯科医院	兵庫県神戸市	近藤 明德
医) すぎ歯科クリニック	兵庫県神戸市	杉 真一郎
てらだ歯科クリニック	兵庫県姫路市	寺田 昌平
医社) たるみ歯科クリニック	兵庫県宝塚市	樽味 寿
羽山歯科医院	奈良県大和高田市	羽山 勇
医) ワイエイオーラルヘルスセンター ワイエイデンタルクリニック	鳥取県米子市	山中 涉
デンタル サロン・ド・ブライト	鳥取県米子市	足本 敦
倉敷医療生活協同組合 玉島歯科診療所	岡山県倉敷市	岡 恒雄
医) ふじわら歯科医院	広島県広島市	藤原 夏樹
医社) 竹下歯科医院	広島県広島市	竹下 亮
医) あべ歯科医院	徳島県徳島市	阿部 敬典
医) 枅富歯科医院	徳島県藍住町	枅富 健二
医社) 古市歯科医院	香川県高松市	古市 貴暢
浪越歯科医院	香川県三豊市	浪越 建男
フォレスト歯科クリニック	愛媛県松山市	森重 創一郎
なかお歯科クリニック	愛媛県宇和島市	中尾 美鈴
医) きほくの里歯科医院	愛媛県北宇和郡	河野 雄一郎
医) たかはし歯科	愛媛県南宇和郡	高橋 啓
あさぎ歯科医院	高知県高知市	浅埜 尚人
千草歯科医院	福岡県北九州市	千草 隆治
ドリーム歯科クリニック	福岡県福岡市	木村 慎一
白木原歯科	福岡県大野城市	伊東 佑記
初診患者ワンポイント調査		
たきさわ歯科クリニック	青森県青森市	滝沢 江太郎
医) 西すずらん台歯科クリニック	兵庫県神戸市	中本 知之
堀坂歯科医院	兵庫県神戸市	堀坂 寧介
ほんだ歯科クリニック	兵庫県神戸市	本多 毅
富の原歯科	長崎県大村市	長岡 守